

令和6年度(2024年度) 第3回 健康すいた21推進懇談会 議事要旨

開催日時	令和7年(2025年)2月6日(木)午後2時から午後3時30分まで
開催場所	吹田市保健所2階 講堂
出席者	岡本 玲子委員長、中村 清美副委員長、高木 忠徳委員、三田 康子委員、谷 将行委員、円野 久子委員、澤井 徹委員、鈴木 亮佑委員、永田 庸子委員、井上 浩委員 (以上10名)
欠席者	新居延 高宏委員、栗田 智代委員、山本 保治委員、山本 雅子委員、瀧澤 廣成委員
傍聴人	なし
議題	(1)健康すいた21(第3次)中間見直し(中間評価)案 (2)次期計画策定に向けた今後のスケジュール (3)食育共同研究の事業評価
資料	資料 1 健康すいた21(第3次)中間見直し(中間評価)案 資料1-2 新旧対照表 資料1-3 健康すいた21推進懇談会意見への回答 資料 2 次期計画策定に向けた今後のスケジュール 資料 3 食育共同研究の事業評価 参考資料1 健康すいた21推進懇談会委員名簿

発言概要

(開会)

(1) 健康すいた21(第3次)中間見直し(中間評価)案

【資料1、資料1-2、資料1-3について事務局から説明】

意見・質問等なし

(2) 次期計画策定に向けた今後のスケジュールについて

【資料2について事務局から説明】

委員

アンケートは無作為に配布するということですが、回答されるのは健康意識が高い人が多いと思います。難しいかもしれませんが、健康意識が高くない人にも回答してもらいやすい工夫を考えていただきたいです。

事務局

より多くの人に回答してもらえるよう、調査票のレイアウトや質問数について見直しを検討します。合わせて、回答率の低い若い世代の回答率を上げるため、WEB回答の導入を検討します。

委員

前回のアンケート調査の回答率はどれぐらいですか。

事務局

一般市民が46.4%、保護者が54.9%になります。

委員

吹田市の人口約38万人に対し、配布数が1%未満というのは少ないと感じます。先ほど別の委員からも意見がありましたが、健康意識の高い人が多く回答すると全体的に数値が良くなるのではないかと思います。

委員長

健康意識は年齢や地域等で異なる場合があるため、回答に健康意識の差が出るかもしれません。調査対象の抽出にあたっては、年齢や地域等を考慮していますか。

事務局

対象者に偏りがないう、年齢別、地域別の人口構成割合に応じて抽出しています。

(3) 食育共同研究事業評価について

【資料3について事務局から説明】

委員

市が食を大切にしていることが分かる良い取組だと感じました。減塩では、だしを効かせることが大切だと考えており、だしをしっかりとることで減塩してもおいしい給食にできていると思いました。自身の子供が小学生だった頃、だしの味や香りの違いを感じていたことを思い出しました。子供でも味だけではなく、見た目、食感、香りも意識して、おいしい減塩食を続けてもらいたいと思います。

委員長

取組を通じた課題として、保護者世代の健康的な食生活の実践につながる啓発方法の検討というのがありますが、普段活動されている中で取り組まれていることはありますか。

委員

栄養士会では、子供の料理教室を実施しており、実際に料理を作って食べるという実体験が減塩に意識を向けるきっかけになっているかと思います。参加者アンケートでは、家庭で食の話を積極的にしているとの回答があり、子供の食育や保護者への啓発につながっていると感じています。また、「みんなの健康展」や子育て世代の参加が多い「チャレンジday」で、フードモデルを使った食育を行っています。

委員

食事の写真を撮ると塩分量や栄養量が表示されるアプリを利用していますが、食塩のとり過ぎ等をゲーム感覚で知ることができるため、子供も興味を持って取り組める面白い取組だと思います。アプリを利用するとポイントがもらえるとより良いのかなと思います。

副委員長

味だけではなく五感で楽しむ薄味の食生活を実践できるような家庭が増えてほしいと思います。保護者の方がこの取組を知っている割合が46%から80%に増えているのは、子供が授業で学んだ内容を家庭で保護者に伝えている結果だと思います。本取組終了後も、いかにこうした啓発を継続できるかが大切です。

取組を通じた課題については、食環境への働きかけが大事だと思います。スーパーやコンビニ等、健康無関心層も含め誰もが利用する場を活用し、お総菜等食べるものでアプローチすることが効果的だと思います。また、映画館等子育て世代がよく行く場で啓発するのも良いかと思います。

(4) 各委員からの今後の取組や懇談会への感想

委員

中間報告書案のP29「行政の取組」に、障がい者施設で実施している歯科健診の取組も記載した方がよいと思います。20年程前から施設での歯科健診と保健指導を実施していますが、利用者の方の頑張りによって、口腔状態は良好です。

P27「12歳における永久歯のむし歯経験歯数」は、1本以下を継続しており、これ以上を目指すのは難しいと思います。もし、目標値を目指すというのであれば、学校にも頑張ってもらい、学校で子供が歯磨きする時間を設けることができれば、全ての子供のむし歯を減らすことができると思います。

P28「オーラルフレイルを知っている人の割合」は、オーラルフレイルの認知度が上がっているため、令和8

年度までの計画の指標とするのは違和感があります。後期高齢者歯科健診では、嚥下機能のスクリーニングテストを実施しているため、この結果を指標にするのが良いと思います。

口腔機能を維持している人はオーラルフレイルを知っていると思われるため、「オーラルフレイルを知っている人の割合」の目標値が「75歳以上で口腔機能の維持向上の方法を知っている人の割合」の目標値より低いことに違和感があります。また、「オーラルフレイルを知っている人の割合」の目標値が現状値より低いことも気になります。

事務局

「オーラルフレイルを知っている人の割合」は、計画策定時に基準となる実績値がなく、他計画の実績値を参考に目標値を設定しました。この指標ではオーラルフレイルという言葉を知っているかを把握していますが、「75歳以上で口腔機能の維持向上の方法を知っている人の割合」は、オーラルフレイルを予防するための具体的な方法を知っているかを把握するものとし、後期高齢者の歯科健診の受診率を数値としています。

嚥下機能に特化した指標の設定については、後期高齢者歯科健診と吹田市歯科健診では健診内容が少し異なっていること、結果を市が把握できていない可能性があることから、難しい面があります。特定健診でも嚥下に関する問診項目があることから、その結果も参考に今後検討したいと思います。

委員長

オーラルフレイルという言葉を知っているのかと、具体的な予防方法も知っているのかという違いかと思えます。より客観的な評価ができれば良いと思いますので、質問の仕方についても検討してください。

委員

薬剤師会としては、幼稚園ではバランスのとれた食事をとること、体を動かすこと、十分な睡眠をとることが、心身ともに健康に育つ上で一番大事なことだと伝えています。小・中学校では、薬物乱用防止教室等を通じて、引き続き子供への啓発に取り組んでいきたいと思えます。たばこの指標である将来喫煙したくないと思う子供の割合の目標値100%を達成するのは中々難しいと思えますが、アンケート調査では、周りに吸っている人がいると注意をしたいと思うとの回答もあり、意識はされていると思えます。市民の方には、健都ライブラリーでの薬や未病等に関する講演や地域の方の要望に応じて出前講座等を実施しています。

また、薬剤師は、自殺予防のゲートキーパーとしての役割も果たせると思えます。今後はメンタルケアにも取り組んでいきたいと思えます。

委員

重要な指標や内容を抜粋したものと市民の方に理解してもらいやすいと思えます。

来年度実施予定のアンケート調査については、調査対象者数が人口の1%にも満たないため、少ないように感じました。

商工会議所としては、就労世代への支援として、企業向けの啓発を考えても良いと思っています。市内中小企業の新入社員を対象とした研修会や各種セミナー等を実施する際、健康に関する啓発を行うことは可能と思えます。また、健診の際にオプションで検査等を受けられる補助制度があれば、受診率の向上につながるのではないかと思います。

健都と連携した取組としては、毎年企業向けに国循の見学会等を実施していますが、参加者数が少なくなっています。他にも、12月には青年部が企業と連携し、「健都親子まつり」というイベントを実施しました。

委員長

アンケートの配布数はもう少し多い方が良いですが、予算等もあるかと思しますので、なるべく回答率が上がるように努力していただければと思います。

委員

食育は生涯にわたって必要なため、全ての世代に対して取り組んでいきたいと思います。栄養士会でもフレイルについて啓発していますが、難しさを感じています。最近では、メタボリックシンドロームに気を付けている方も多いため、やせている高齢者の方が食べ過ぎを気にする、フレイル予防のためにタンパク質を摂取しすぎて満腹になり、ご飯の量が減り必要なエネルギー量が足りなくなってやせてしまうといったこともあります。世代によって伝えたい内容も異なるため、できるだけ市民の方が利用する場に出向いて、対面でアドバイスしていければと思います。

委員

健康は子供から高齢者まで長い期間で考えるため、子供の生活習慣を支える保護者の役割は非常に重要だと思いました。

かるしお大作戦ですが、今後も継続していくという点では、おいしかった給食のメニューを子供と一緒に作る取組を学校で実施してもらえると良いと思います。1学期に1回くらいの頻度で、作ってみた感想を家族がiPadで回答するといった取組を通じて、少しずつ家庭内に浸透していくと思います。

また、給食の献立表の成分表示等を細かく見ている保護者は少ないと思います。デジタル化し、給食の写真を載せる、成分表示やレシピの詳細はクリックすれば見ることが出来る等、献立表の見せ方を検討していただければと思います。写真を見せながら、子供にどれがおいしかったか聞く等、親子で食の話をするきっかけにもなるかと思えます。

健康の啓発をする上で、特に伝えたいポイントを幼稚園、小学生、中学生向けに分かりやすくまとめた媒体を提供いただければ、配信することもできるため、検討いただければと思います。

委員

懇談会に参加するまでは、市が健康増進にこれほど取り組んでいることを知りませんでした。懇談会に参加し、改めて自身の健康意識が高まりましたので、家族や周りの人に伝えていきたいです。こうした取組が市民に浸透していないことが課題かと思いますが、かるしお大作戦のように、子供たちを通じて家庭に啓発するのは良いと思います。私自身、減塩食を初めて食べた時は、味が薄くおいしくないと感じましたが、1週間程度すると、薄味だからこそ素材の味が分かることに気づき、今も薄味を続けています。同様に、子供の味覚が減塩の味に慣れれば、家庭での味が濃いと感じ、それを保護者に伝えることで、自然に家庭に減塩が浸透していくと思います。今後も何らかの形で取組を継続していただければと思います。

委員

保護者と一緒に生活している時は朝食を摂取していても、働き始めると様々な要素により、朝食を取らな

くなったり、生活リズムが乱れたりする人がいます。かるしお大作戦のような、給食を活用した食育を受けた子供たちが将来どのようなに成長するのか、職域の観点から興味を持ちました。

また、かるしお大作戦では、スーパー等の生活に身近な場所での啓発も実施されていましたが、更に取り組を進めるのであれば、企業と連携し、従業員への啓発ができれば良いと思いました。就労世代へのアプローチというのは難しいため、企業との連携を1つの切り口に事例ができれば良いのではないかと思います。

産業保健センターが協力できることとしては、事業者の方が関心を持てるようなセミナー等を市とコラボして実施するというのは考えられるかなと思います。商工会議所が実施されている新入社員研修では、朝食摂取に関して啓発ができれば良いのかなと思いました。

委員

協会けんぽに加入されている企業でも健康意識が異なるため、協会けんぽだけでは訴求力が低いと感じています。協会けんぽでは、「健康宣言」という事業で、事業主と協働・連携(コラボヘルス)し、食、運動、たばこ、健診といった健康に関する取組を実施しているので、吹田市全体の健康につながると思います。次年度以降、具体的に連携していければと思います。

副委員長

子供を通じた保護者へのアプローチは何十年も前から、別の分野でも実績がありますが、効果的な方法であっても、学校を巻き込んで実施するとなると難しい面もあるため、今回のかるしお大作戦が成果に繋がったことは素晴らしいことだと思います。食に限らず、健康すいた21で目標としている健康的な生活習慣に関して子供を通じて家庭に届けられると良いと思います。

委員長

各委員からは、それぞれが関わっている領域や対象、活動と照らし合わせ非常に具体的な提案がありましたので、実現可能性な取組を検討していければと思います。子供への啓発は、子供だけではなく、子供を通じて保護者にも啓発することで職域の取組にもつながります。アプローチが届きにくいのは、家族と同居していない単身世帯だと思います。

その他に、男性の肥満は10代~30代に増え続け、40代以降は高止まりするというデータがあります。40歳から保健指導始めても遅いため、若い男性への早期アプローチが大事です。アプローチが届きにくい層は、よりリスクが高くなるため、どのような対象者に、どのような方法で働きかけを行うのが効果的かを次期計画では考えていければ良いと思います。

事務局

本日欠席されている委員からもご意見をいただきましたので、事務局からお伝えします。

事務局(委員)

医師会としては、専門的な立場からエビデンスのある助言や提言を心がけています。特に、タバコによるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の減少に向け、国や医師会を挙げて禁煙指導に取り組んでいるところです。若い世代への禁煙指導は重要な課題であり、行政との連携が不可欠だと思います。吹田市は大阪大学や国立循環器病研究センターがあり、医療、特に高度先進医療が充実しています。このアドバンテージを生か

して健康長寿を目指し、更に市民に医学的に充実している環境の恩恵を提供したいと考えています。

事務局（委員）

社会福祉協議会では、地区福祉委員やボランティアの方等、市民自らが活動する機会を多方面から支援しています。一人ひとりがやり甲斐や生きがいを感じることができる社会になれば良いと思います。

事務局（委員）

各団体の取組を聞くことができ有意義でした。今後もくらしにとけこむ健康づくりの推進に取り組みます。

事務局（委員）

健康づくり推進事業団は、医療や保健の専門的知識を持った団体、大学と連携しながら、個人の健康づくりを支援するための取組を行っています。今後は、企業との連携も図りながら、健康にあまり関心を持っていない人が関心を持てるような間口の広い入り口を作っていきたいと考えています。ほんの少しの気づきを積み重ねることで、自然と自分の身体への関心が高まっていけば良いと思います。

(5) 今後の予定

事務局

今回の評価をもとに、残りの計画期間を目標の達成に向け、取り組みを進めていきます。来年度は、現在の計画の進捗管理と並行し、次期計画に向けた検討を開始し、アンケート調査等を実施します。

(閉会)